

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和二年五月度 入選句（投稿総数三百七十四句・一般投句数三百四十七句）

特選

待つ人のいる明るさの春灯

不破郡垂井町

大羽 志津子

「春灯」のイメージは明るい・のびやか・温かい・はんなり・華やか・艶美などである。待つていてくれる人は誰であろう。家族・友人・恋人。またその場所もいろいろ想像できる。この一句で一篇のドラマが成り立つ。

榎粉木の弾みて夫の木の芽和

宮城県多賀城市

小松 隆夫

「木の芽和」は山椒の芽に味噌や砂糖をすりませ、それで筍や烏賊などの旬の食材を和えたもの。酒の肴に合う。山椒の木で作った榎粉木を使うとより香りが出る。夫が楽しそうに調理している様子が分かる。至幸の晩酌のひとつとなった。

コンパスは兄のおさがり朧月

広島県福山市

中常かつたろー。

「朧月」はおぼろに霞んだ春の月。光ほのかで柔らかく、甘く懐かしい感じの季語。兄のコンパスと取合せることで、兄に対する思いが伝わってくる。少し年が離れているあこがれの兄だったかもしれない。コンパスで描く円と月の対応も面白い。

秀逸

柚人の一本道や座禅草

福井県敦賀市

山田 美千代

河岸跡の石積に触れ春の風

埼玉県川口市

大沢 きみい

春眠に誘はるごと祖母逝けり

埼玉県川口市

木下 洋子

はつなつの耳美しき尼僧かな

愛知県名古屋市

舘野 茂子

じゃんけんで決める役員山笑ふ

大垣市

早崎 美弥子

夢乗せて乗せてまた吹くしゃぼん玉

大垣市

大杉 すみゑ

里の彩蚕豆となり届く朝

静岡県富士市

磯野 昭仁

オレンジの色の天気凶春の朝

養老郡養老町

松永 智志

佳き日から始まる式辞風光る

大阪府東大阪市

森 佳月

帽子から靴のさきまで入園児

大垣市

平野 ヒサエ

入選

誰が為の花見の席や椅子一つ
 湯に浮きし夏月揺らぐ旅の宿
 上り鮎跳ね返されて光飛ぶ
 摘み草を和紙になじませ一筆箋
 昭和の日筆笥の底のもんぺ干す
 暖冬や靴下の穴開きしまま
 聖五月両手に掬ふ鳥の声
 轉りにスキップする子輪中堤
 死に仕度もふ出来たかと鳴く蛙
 一人では出来ぬじゃんけん初夏の昼

大垣市
 安八郡神戸町
 不破郡垂井町
 京都府城陽市
 福井県敦賀市
 不破郡垂井町
 神奈川県大和市
 大垣市
 安八郡輪之内町
 大垣市
 鶴田
 信子

岡田 けい子
 早津 郁男
 富田 実郎
 松村 秀一
 山田 美千代
 小坂 久美子
 岩田 爾瑠
 新町 恵子
 野村 照子
 久保田 悟義
 岸下 庄二
 後藤 允孝
 新井 悠久
 松井 政典
 松本 裕子
 羽島 はなこ
 平野 ヒサエ
 龍野 ひろし

入選

影うるむ春満月の玻璃戸かな
 大盛の筍飯に父偲ぶ
 鞆や今を忘れし父つれて
 祖母が逝く土筆の苦み増した通夜
 テレワークしながら蓬餅齧る
 芝桜シフォンケーキの似合ふ午後
 入選の通知ありけり名草の芽
 養花天書いては忘れ備忘録
 やはらかき春日紡ぐや佐賀錦

大垣市
 兵庫県神戸市
 三重県四日市市
 加茂郡八百津町
 三重県鈴鹿市
 宮城県名取市
 安八郡安八町
 大垣市
 神奈川県横浜市

久保田 悟義
 岸下 庄二
 後藤 允孝
 新井 悠久
 松井 政典
 松本 裕子
 羽島 はなこ
 平野 ヒサエ
 龍野 ひろし

選者吟

自肅して夢で旅する五月かな

武直